

長久手市行政評価票

事業番号	32	事業の名称	遊休農地活用事業		担当部署	部	課					
						くらし文化部	産業緑地課					
基本方針	(1)万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	分野別項目	(7)農のあるくらし・農のあるまちを支える	施策の進め方	(1)遊休農地の解消	フラッグ	フラッグ項目					
事業の概要	要綱に基づく前熊堀越地区の農地の幹旋、「長久手給食食材生産会」の運営支援等を行うことで、新規就農及び既存農家の農地拡大の推進並びにあぐりん村や学校給食への出荷を促進し、遊休農地を減らしていく。				他市町の実施状況 (近隣市町や先進都市の状況等を具体的に記載)	日進市:農地バンク制度 東郷町:農地バンク制度						
事業期間	事業開始年度	平成20年度	終了(予定)年度	—	総事業費	総事業費 (単位:千円)	H25予算	H25決算	H26予算	H26決算	H27予算	
事業の対象 (だれ、何に対して)	市内農業者					うち	一般財源	0	0	0	0	0
事業の意図 (対象をどのような状態にしたいか)	前熊堀越地区を地産地消費産物の生産拠点とする。						国費・県費	0	0	0	0	0
							地方債	0	0	0	0	0
					その他		0	0	0	0	0	
						受益者負担額	0	0	0	0	0	

評価の見方	
A	現行どおり実施
B	事業の改善
C	他事業と統合
D	運営主体の見直し
E	事業の廃止の検討

事業を構成する 事務事業	対象 (だれ、何に に対して)	目的		事務事業の 実施結果	成果指標	成果		事業費(単位:千円)			評価		
		手段 (いつ、どのような手段を使って) 4月~ 7月~ 10月~ 1月~	意図 (対象をどのような状態にしたいか)			H25実績 H26実績 H26目標値	単位	成果指標の目標値 設定の根拠	H25予算	H25決算	H26決算の主な内訳 (単位:千円)	評価	評価の説明
									H26予算	H26決算		事業規模 事業費	
①	市内農業者	要綱に基づき、遊休農地を幹旋することで	前熊堀越地区の遊休農地を解消し、耕作地を増やし市内農産物の生産量を増加させる。	農業者の規模拡大支援及び新規就農者への農地幹旋	前熊堀越地区の遊休農地面積	28,128 21,009 27,000	m ²	前熊堀越地区の遊休農地の減少状況	0 0 0	0 0 0	0 0 0	A 維持 維持	農業者の規模拡大及び新規就農者の参入が順調に進んでいる。遊休農地面積は目標値以上に少なくっており、幹旋及び農業者の積極的な活動の効果が出ている。
②	市内農業者	学校給食への納入品目、数量等を決定する栽培会議を給食センターも交えて開催し、連絡調整を活発にすることで	学校給食への地元農産物の納入量を増やす。	生産者会議の開催(毎月1回)栽培会議の開催	学校給食への納入実績	3,889 3,198 8,000	kg	これまでの納入実績の最大値	0 0 0	0 0 0	0 0 0	A 維持 維持	市内産の野菜の納入を増やすための方策について、毎月生産者で協議を行ない、実践するようにしている。担当課と生産者との間でできることは行っており、使用量が増えないのはセンター方式による給食の製造過程、農業者の生産方針、体制、農業技術による。継続して事業実施をしていくとして、評価はAとした。
③	市内農業者	給食食材生産にN-GAP(安心・安全な農作物を生産するための工程管理手法)を導入することで	生産する農作物の質を向上させ、安心・安全な長久手産野菜を消費者にむけてアピールする。	生産者会議の開催(毎月1回)	N-GAP認証圃場面積	50,374 50,374 50,374	m ²	前年度実績	0 0 0	0 0 0	0 0 0	A 維持 維持	毎月生産者で協議を行ない、安心安全な野菜栽培を実践するようにしている。認証システムはできあがっているが、担当する職員、農家がシステムの運営まで手が廻らない状態であるため現時点では面積の維持と、NGAPの運営が目標である。継続して事業実施をしていくとして、評価はAとした。
④													

事務事業の改善内容	事務事業	改善内容(H27以降に実施する内容)	H27以降新規に実施する事務事業	事務事業	事業概要